

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079400125		
法人名	社会福祉法人 日王福祉会		
事業所名	グループホーム くぬぎの里 (A棟・B棟)		
所在地	〒822-1202 福岡県田川郡福智町神崎1056-114 Tel.0947-22-0280		
自己評価作成日	平成30年08月23日	評価結果確定日	平成30年11月01日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel.093-582-0294		
訪問調査日	平成30年09月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームくぬぎの里では、運営理念(地域と共に一人一人が笑顔でノビノビとした暖かい生活を)を基に明るい雰囲気を作る事に努めています。また、個人に合わせたケアや生活リズムを大切にレクリエーション・ラジオ体操・機能訓練など毎日行い入居者様がノビノビと生活出来る様に日々取り組んでいます。今後も、季節毎の行事や外出支援を行い笑顔で共同生活を過ごして頂ける様に努めていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「くぬぎの里」は、温泉センターやふれあい塾等、町立の施設が近くにある自然豊かな環境の中に17年前に開設された2ユニットのグループホームである。町の敬老会や地区の行事に参加し、文化祭には、毎年利用者と一緒に制作した作品を出展し、区の山笠の飾り物作りや山笠見物等、地域の一員としての交流に努めている。利用者が入居前に受診していた馴染みのかかりつけ医の受診を職員が同行支援し、それぞれの病院と協力関係を築き、週2回の訪問看護師、介護職との連携で、安心の医療体制が整っている。管理者は、福智町グループホーム協議会の会長を引き受け、研修や情報交換を行い、同業者との繋がりを大切に、地域福祉の発展に取り組んでいる。また、定期的な外出レクや福岡での野球観戦等、利用者の笑顔とのびのびとした暮らしの実現の為、人柄の良い職員が利用者の目線で温かく寄り添う、グループホーム「くぬぎの里」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で決めた理念を玄関等に提示し、全職員が共有し合い実践に取り組んでいる。	ホーム独自の理念を玄関等に掲示し、毎朝、朝礼の最後に唱和して、「今日も一日宜しくお願いします」と大きな声で挨拶することから1日が始まっている。申し送りノートの表紙に理念を記載したり、ミーティング時に確認する等、理念の共有に努め、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	福智町の文化祭や敬老会、地元地区の行事等に参加している。文化祭には、入居者様が作った作品を展示し地域の方とのつながりを支援しています。	福智町の文化祭や敬老会、山笠の飾り物作り等、地域の行事や活動に積極的に参加し、文化祭には利用者として制作した作品を出展している。2年に1度の山笠の山車をホーム前の広場で見学することも、利用者の大きな楽しみである。	幼稚園、保育園児との交流や、小、中学校の職場体験の受け入れ、学生の実習の受け入れ等、異年齢交流を含め、地域に開かれたホームを目指した取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、年間行事の報告や認知症ケアに関わる事例報告等を行い、地域に情報を広めて頂く様に依頼をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは福智町地域包括支援センター、地元区長、ご家族代表、入居者代表で構成している。会議は2カ月に一回行い、ホーム内の報告やご家族様等の意見を頂き情報交換している。	運営推進会議は、利用者代表、家族代表、区長、地域包括支援センター職員参加の下、2ヶ月毎に開催している。ホームからは利用者の状況、サービスの状況、行事予定について報告し、参加委員からは質問や情報提供を受け、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議に、地域の他事業所管理者と相互参加して、より充実した会議を目指して情報交換する等、参加者の増員に努め、勉強会や試食会、レクや避難訓練等、体験型の内容を採り入れる工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福智町の行事に積極的に参加し、行政担当者とは電話や直接会って話す機会を設けている。	管理者は、疑問点があれば行政窓口に行き相談し、助言や情報提供を受ける等、協力関係を築いている。今年度、福智町グループホーム協議会の会長を引き受け、これまで以上にやり取りの機会も増え、連携を図っている。運営推進会議に、地域包括支援センター職員の参加を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から玄関の施錠はしていません。また、ミーティングなどで勉強会を行い身体拘束を行わないケアをスタッフと話し合い努めている。	今年度から身体拘束の研修が義務付けされたので、職員会議や勉強会の中で、身体拘束について職員が学ぶ機会を設けている。身体拘束の具体的な事例を挙げて検証し、禁止となる行為の正しい理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルや研修資料を基に、定期的な勉強会を行っています。また、職員一人一人を把握し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、対応が必要な入居者様がいた場合は、アドバイスや支援を行っている。	権利擁護の制度についての勉強会を職員会議の中で実施し、職員が学ぶ機会を設けている。制度に関する資料やパンフレットを用意して、利用者、家族から相談があれば、内容や申請手続きについて説明し、利用者の権利や財産が不利益をを被らないように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書等に入居者様の権利や義務を分かりやすく明記している。入居時に説明を行い同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に福岡県やホームの苦情相談窓口を記載し提示している。また、ホーム内に意見箱を設置し入居者様やご家族様からの訴えがある場合は、申し送りやミーティングで話し合う様にしている。	家族に利用料金の支払いを兼ねて、最低でも月に1回は来訪をお願いし、訪問の機会にコミュニケーションを取りながら利用者の暮らしぶりや状態を報告し、家族の意見や要望を聴いている。利用者に対しても、日々の関わりの中で要望を拾い上げ、出来る事から実現に向けて取り組んでいる。	行事を兼ねた家族交流会を開催し、家族と共に利用者を支える関係作りへの取組を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で話し合い、管理者はスタッフの要望や意見を聞く様にしている。	時間外の会議の為、ミーティング手当を支給する等工夫して、ほぼ全員の職員が参加するミーティングを毎月開催している。活発な意見交換が行われ、出された意見や要望は、出来るだけ反映させている。また、管理者と職員の距離が近く、気軽に話が出来関係である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、頻繁にホームに来ており、入居者様と日々コミュニケーションを図られている。スタッフに業務態度を把握し、要望や納屋などを聞き向上心を持って働ける様に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は、高齢者が好きな人と介護職に対して意欲のある方。管理者は、スタッフの悩みを聞きやすくスタッフが生き生きと仕事出来る様に心掛けている。	管理者は、職員の特技や能力を把握し、役割分担や勤務体制に配慮して、働きやすい職場環境を目指している。職員の採用は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考え方を優先している。採用後は、研修会に職員が交代で参加し、職員一人ひとりの介護技術の向上を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング等でスタッフと話し合い、入居者様に対しての言葉遣いや、態度についての注意点等を話している。また、人権ビデオ観賞をしながら勉強会も行っている。	勉強会や外部研修会の中で、利用者の人権を尊重する介護について学び、常に職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意して、利用者が持っている個性や生活環境を尊重した介護サービスの提供に取り組んでいる。また、行政から提供されている人権についてのビデオを観賞し、意識づけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地元のグループホーム協議会や勉強会に管理者やスタッフが参加し、研修を受け質の向上に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福智町グループホーム協議会や田川地区認知症対応型共同生活介護専門部会など、定期的な交流の場を持ち情報交換やサービスの向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様と良い信頼関係を築ける様に、入居者様の思いや話をよく聞き、要望や気持ちを受け止める様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様と同様に、良い信頼関係を築ける様に、ご家族様の思いや話をよく聞き要望や気持ちを受け止める様に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画書の作成時に、入居者様とご家族様の要望を基にどの様なサービスが必要かを検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご家族様の思いに寄り添いながら日々の出来事や気づいた事の情報共有に努め、入居者様と一緒に支える為にご家族様と同じ思いで支援している事を伝えている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に外出・外泊の話をしたり年間行事の案内をするなど、入居者様と一緒に過ごしてもらい機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の行事等の参加を促し、馴染みの人との関係が途切れない様に努めている。	身内の方の面会がほとんどであるが、訪れやすい雰囲気作りを心掛け、利用者の良い時間を過ごして貰えるよう配慮している。また、出来るだけ地元の行事に参加するようにして、(とんどん焼、文化祭、敬老会)馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーション、日常生活動作訓練などコミュニケーションを図りながら孤立することがない様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所に関しては、死亡や長期入院が殆んどであり、利用終了後の関係は保っていない。必要に応じて継続的な関係を保って行きたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族様の意向や希望などの話を聞き入居者様の思いをスタッフ間で共有している。また、意向や希望の把握が困難な場合は、スタッフが寄り添い考え検討しています。	利用者の重度化に伴い、思いや意向の把握が少しずつ難しくなっているが、これまで築いてきた関係の中から、本人本位に考え、職員間で話し合っ共有し、利用者の思いに沿った介護サービスの提供に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族様との会話の中で、プライバシーに配慮しながら情報を頂き、スタッフ間で共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活リズムの把握に努め、日々の状態に配慮しながら生活の支援を行い、出来る事を見つけ伸ばす様に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が自分らしく暮らせるように、スタッフ等で検討し具体的な介護計画を作成している。	担当職員やケアマネージャは、利用者や家族の意見や要望を聴き取り、モニタリングやカンファレンス、毎日の申し送りの中で検討し、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。また、定期的に介護計画の実施状況を確認し、状態変化に合わせて見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状態の変化やスタッフの気づきなど個人記録に記載し、スタッフ間で共有している。個人記録を基に、介護計画の見直しを実施している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋がある場合は、ショートステイを受け入れている。ショートステイ後に自宅生活困難時には、グループホーム入所を受け入れ穏やかな住み替えの支援をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が、安心して地域での暮らしを続けられるように福智町役場(福祉課)や民生委員・消防署・地域包括支援センター・教育委員等との意見交換を行う場を設けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居者様やご家族様の意向を大切にしながら、かかりつけ医の受診を行っている。受診内容は、個人記録に記載し情報を共有し状況に応じてご家族様へ報告している。	往診対応は1名のみで、その他の利用者は、それぞれ馴染みのかかりつけ医の受診を職員同行で支援している。薬の変更等、変化があった場合には家族に報告している。それぞれの主治医との関係を築き、週2回の訪問看護師と介護職員の連携で、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護ステーションと契約し、週に2回看護師を派遣して頂き入居者様の状態の把握やアドバイスを頂いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院が出来る様に入院されている入居者様には、週1回の面会や身のお世話を行い、ご家族様や医療関係とも情報交換を行い早期退院支援に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に関わる方針を入居者様やご家族様に説明し同意を得ている。	重度化や終末期の対応方針について、契約時に利用者や家族に説明し、希望を聴いている。これまで看取りの経験はないが、家族の要望があり、協力が得られる等条件が揃えば、「お手伝いさせていただきます」と伝え、いつでも対応出来る体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成するとともに、事故発生時に備え定期的に勉強会を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力して頂き避難訓練や避難経路の確認、消火器の使い方などの指導を受けている。また、地元消防団とも協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行い、自主防災訓練と消防署の参加を得て1回ずつ実施している。通報装置や水消火器を実際に使って確認し、利用者を安全に避難場所に誘導出来るように取り組んでいる。また、管理者が地元の消防団に所属しており、緊急時の協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや朝礼にてスタッフの意識向上を図ると共に、個人情報漏れの無い様に注意を促している。	利用者一人ひとりのプライバシーを守る介護の在り方を、職員会議や申し送り時に職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意して、利用者が安心して暮らせるホーム作りに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、周知が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ側で決めた事を押しつける様な事をせず、複数の選択肢を提案し入居者様が自分で決める場面を作っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の状態を配慮しながら、希望や意向を把握し本人の気持ちを尊重し支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様やご家族様の希望を聞きながら、馴染みの美容室等に行ける様に送迎を行っている。また、地元の理美容室の方に訪問して頂ける様に連携を取っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと入居者様が一緒に食事の準備や片付けをして頂いています。月2回は入居者様の好みを聞いて食事作りをしています。	おかずのみ配食サービスを利用し、ホームで精米した御飯と汁物はホームで作って、家庭的な食事を提供している。月2回は利用者の希望を聞いて食事作りに取り組み、個別レクや行事では外食の機会を設け、食事を楽しむことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を摂取できるように好みの飲み物を提供しています。また、個人記録に食事摂取量や水分摂取量を毎日記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、入居者様の能力に応じたケアを行っている。また、就寝時には、義歯を洗浄液につけ清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄状況を記録して排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行う事で気持ち良く排泄が出来る様に支援している。	利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、現在は車椅子の方も立位が保てているのでトイレでの排泄を支援している。個人記録に、毎日の排泄の状況を記録し、パターンを把握してトイレ誘導を行っている。夜間帯もコール対応し、ポータブルトイレの使用等、個々に沿って柔軟に支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、毎日の排泄状況や水分摂取量のチェックを行っている。また、運動を働きかけ自然に排便が出来る様に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には決まった曜日に入浴して頂いています。また、自己決定出来る入居者様は、希望に応じ入浴をして頂く様にしている。希望される入居者様には、近隣の温泉に行き入浴を楽しんで頂く様にしている。	入浴は週3日を基本とし、一番風呂を好まれる利用者等、個々の希望になるべく浴えるよう配慮している。希望者には近くの温泉も利用している。また、入浴を拒否される利用者には、曜日を変えて対応し、無理強いないよう努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整える様に努めている。入居者様の体調や希望を考慮しゆっくり休息がとれる様に支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や主治医意見書などを個人記録に綴り、スタッフが内容を把握出来るようにしている。また、服薬時には本人に手渡し、きちんと服薬が出来るか確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮して頂ける様に、お手伝いをお願いし感謝の気持ちを伝える様にしている。また、季節の行事や個別レクで外食や買い物をして頂き気分転換が出来る様に支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	入居者様の希望に応じ、買い物や外食、散歩やドライブ等に出かけている。また、年間行事を通して色々な所に出かけている。	ひとつの行事に全員での参加が難しくなっているが、土、日曜日を利用して、個別での外出に出かけている。年間を通して、季節の花見(梅、桜、チューリップ、藤等)や、ヤフードームでの野球観戦、地元の行事への参加、病院受診帰りの寄り道等、少しでも戸外に出かけられるよう、取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の協力を得て少額のお金を持っている入居者様もいる。買い物など、本人にお金を手渡し支払いをして頂くなど工夫している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人等に電話しやすい雰囲気作りや入居者様より希望がある場合は、電話をかける支援を行う。また、会話が他者に聞こえない様に電話の設置場所を工夫している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、空気の入替えや掃除を行い清潔保持に努めています。また、人形を置いたり行事の写真・入居者様の作品等を貼り、心地よく過ごせる様な雰囲気作りにも努めています。	換気や清掃を小まめに行い、開設17年になるが、臭いのない清潔な生活環境である。室内には、利用者の笑顔の写真や手作りの飾り物、貼り絵の作品等を掲示し、季節感のある家庭的な雰囲気の共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下、自室に椅子やソファを設置し他の入居者様や一人でゆっくり過ごせるスペースを作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真や、入居者様の馴染みの家具などを持って来て頂き、本人やご家族様と一緒に配置を考える等、居心地良く過ごして頂ける様に配慮している。	各居室に大きなクローゼットを完備して、利用者の馴染みの物を持ち込んでもらい、テレビや仏壇等を配置し、本人が安心して居心地良く過ごす事が出来るよう支援している。また、利用者の状況や動線に配慮しながら家具の配置を考える等、利用者が安全に過ごせるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を掛け、自室の分からない入居者様には声掛けや誘導を行っている。また、入居者様に混乱や失敗が生じた場合はその都度スタッフで話し合い、本人の不安を取り除き自立した生活が送れるように努めている。		